

★えほん★

「おふとんさん」

コンドウアキ／作 小学館 E3コン

おかのてっぺんに、もうつかわなくなったものとほしいものをこうかできるばしょがある。ぼくは小さくなつたつをもってきたけれど、ほしいものがなかったので手ぶらでかえっていると…なにかがついてきている！



★よみもの★

「アルバートさんと赤ちゃんアザラシ」

ジュディ・カー／作・絵 三原泉／訳 徳間書店 932カア

お母さんに死なれた赤ちゃんアザラシを家に連れて帰ったアルバートさん。引きとってもらった動物園にはとてもあずけられないと思ったアルバートさんは、同じアパートのミリセントさんの助けをかりて、赤ちゃんアザラシのすみかをさがしはじめる。



★しらべもののほん★

「感じて見よう!はじめてであう日本美術3」

佐野みどり／監修 教育画劇 70

白い着物を着た足のない幽霊を描いたはじめての作品といわれている「幽霊画」や、捨てられた古道具たちが人間に復讐する「付喪神絵巻」。このシリーズではドキドキワクワクする作品がいっぱい。日本美術が身近に感じられる。



あたらしい本のコーナー

「このあいだになにかあった？」

佐藤雅彦+ユーフラテス／作 福音館書店 E2コノ

「毛がふわふわのひつじの写真」と「毛がなくなったひつじの写真」このあいだになにかあった？「陸に上がった船の写真」と「海に出ている船の写真」このあいだになにかあった？

とちゅうをみればビックリ！こんな風に変わっていたんだね。



「これあな」

みやにしたつや／作・絵 鈴木出版 E3ミヤ

あれ？まんなかにあながあいているよ！やぶれちゃったのかな？いやいやいや、これはほんとうに絵本のまんなかにあながあいているんだよ！ページをめくるとたびにあらわれるあな！あな！あな！！あなたはどのあなをのぞいてみたい？



「つつづくりにわづくり」

ケイト・メスナー／文 クリストファー・サイラス・ニール／絵 小梨直／訳 福音館書店 E4ニイ

おにわに立って、わたしはかんがえる。てにはたねがいっぱい。あたまのなかは、ゆめでいっぱい。でも、じめんのしたのしたくは、まだだ。むしやミミズたちがつちをやわらかくしているさいちゅうだ。おばあちゃんといっしょに、じゅんびをしなれば。



「靴屋のタスケさん」

角野栄子／作 森環／絵 偕成社 931カト

戦争の時代の、わたしがまだ子供だったころ、町に新しい靴屋ができた。そこで働くタスケさんはどんなにぼろぼろの靴でも直せてしまう。でもある日、タスケさんは戦争に行くことになり…。



「ぼく、ちきゅうかんさつたい」

松本聰美／作 ひがしちから／絵 出版ワークス

931マツ

トモヤはまわりのいろいろなものをかんさつする、ちきゅうかんさつたいのたいいん1号。たいちょうはおじいちゃん。ぼくのごとは、はっけんしたものをおじいちゃんにほうこくすること。ともだちのことや犬のらんまるのこと、きょうはなにがあるのかな？



「メキシコへ わたしをさがして」

パム・ムニョス・ライアン／作 猫野ぺすか／絵

神戸万知／訳 偕成社 932ライ

アメリカのトレーラーハウスで弟のオーウェンとひいおばあちゃんと暮らすナオミ。ある日突然、お母さんがたずねてきて、ナオミだけを引っ取りようとする。これを避けようとメキシコにいるはずのお父さんをさがしに行く。



「劇場ってどんなところ？」

フロランス・デュカトー／文 シャンタル・ペタン／絵 岡室美奈子／日本語版監修 野坂悦子／訳 西村書店

77

劇やバレエ、音楽など、劇場ではいつもすてきなステージを見ることができ。劇場では、舞台の上だけでなく、舞台の裏でもたくさんの人が働いているんだ。ふだんは見ることができない舞台の裏はどんなふうになっているんだろう。



「調べてみよう都道府県の特産品 駅弁編」

都道府県の特産品編集室／編 理論社 59

「ひっぱりだこ飯」や「いちご弁当」って、何県のどんな駅弁？百年以上も前に誕生した駅弁は、鉄道の発達とともに各地で作られるようになった。駅弁には、地元のおかずだけでなく、その土地の歴史や文化も盛り込まれている。



「鳥の巣つくろう」

鈴木まもる／著 岩崎書店 75

鳥の巣は、鳥の家じゃないってしてた？卵を生むときに、ヒナが飛べるようになって巣立つとかわらないんだって。鳥の巣ってなに？どうやってつくってるの？がわかったら、鳥のように枯葉や小枝、紙や毛糸などをつかって巣をつくってみよう。

